

第3回 矢作川水系流域委員会の開催

矢作川水系河川整備計画策定後、社会情勢の変化や地域の意向、河川整備の進捗状況や進捗の見通し等を適切に反映できるよう整備計画の点検を目的として、河川に関する学識経験を有する委員を集めて「矢作川水系流域委員会」を適宜開催しています。

今回「第3回 矢作川水系流域委員会」を開催し、矢作川水系河川整備計画の進捗状況のうち、河川環境の整備と保全に関する報告に対する意見を頂くとともに、矢作川総合水系環境整備事業の再評価について審議を行いました。

【開催概要】

日時：令和2年10月30日（金）

9：30 - 11：10

会場：WEB開催

【主な議事】

- ・ 矢作川水系河川整備計画の進捗状況
（河川環境の整備と保全に関する事項）
- ・ 矢作川総合水系環境整備事業の再評価



豊橋河川事務所所長



辻本 哲郎 委員長



小池 則満 委員



内田 臣一 委員



山本 敏哉 委員



溝田 大助 委員



松本 嘉孝 委員



大野 栄治 委員



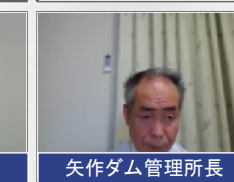
小野 悠 委員



戸田 祐嗣 委員



久保 正明 委員



矢作ダム管理所長

委員会開催状況（WEB）

- ・ 矢作川総合水系環境整備事業再評価について、事業継続とする対応方針（原案）が了承されました。

【主な意見】

- ・ 流域治水プロジェクトに農業関係施設による効果も期待されるので、今後は国・県・市の農政部局などとも連携して進めてほしい。
- ・ 河川整備計画に対する流域治水プロジェクトは、計画の達成というよりも事業の加速化、そしてそれが、気候変動を考慮したセカンドステージへ結び付くものと認識した。
- ・ 矢作川の水質は全体的に見れば良好な状況を維持しているが、観測データは調査日の天候等の影響も受けることから、瞬間的な結果だけで水質の良否を安易に判断するのではなく、引き続き経年的な変化や傾向をモニタリングしてほしい。
- ・ 水質の情報に関して、専門的指標だけでなく、一般向けには透明度といった分かりやすい指標があると良い。
- ・ 自然再生事業については、部分的な干潟がどこにあるかということに一喜一憂せず、河口流況の変化や、海の方の変化など、どのような形で望まれるのかをもう少し組織的な形として見るのが望ましい。
- ・ 環境整備事業の事業評価手法については、より実態を評価したものとなるよう引き続き工夫をしてほしい。